

特別の教科 道徳 授業づくり講座

発行 令和元年7月
高知市教育委員会
学校教育課

第1回授業研究会(令和元年7月12日) 高知市立一宮中学校

【主題名】 心の弱さを乗り越えるために D-(22)
【教材名】 「銀色のシャープペンシル」(「新しい道徳1」東京書籍)
【授業者】 井上 美智子 教諭
【ねらい】 人間の弱さと良心との間で悩む主人公の心を通じて、自らの弱さや醜さを克服する強さやよりよく生きようとする態度を育む。

提案授業

【授業を通して引き出したい生徒の考え】

○人間はみんな弱さや醜さを持っていて、ついその場をごまかそうとすることがある

○「しまった」という思いを繰り返しながら成長していく。

○自分の中に「自分をよくしたい」という思いもみみなある。

○主な発問 ◆補助発問(問い返し)

○「ぼく」と「卓也」の違いはどこなところですか？

・その場をごまかしてしまっている「ぼく」の弱い心に気付かせる。(ついごまかしてしまっただけの「ぼく」の気持ち、わかる?)

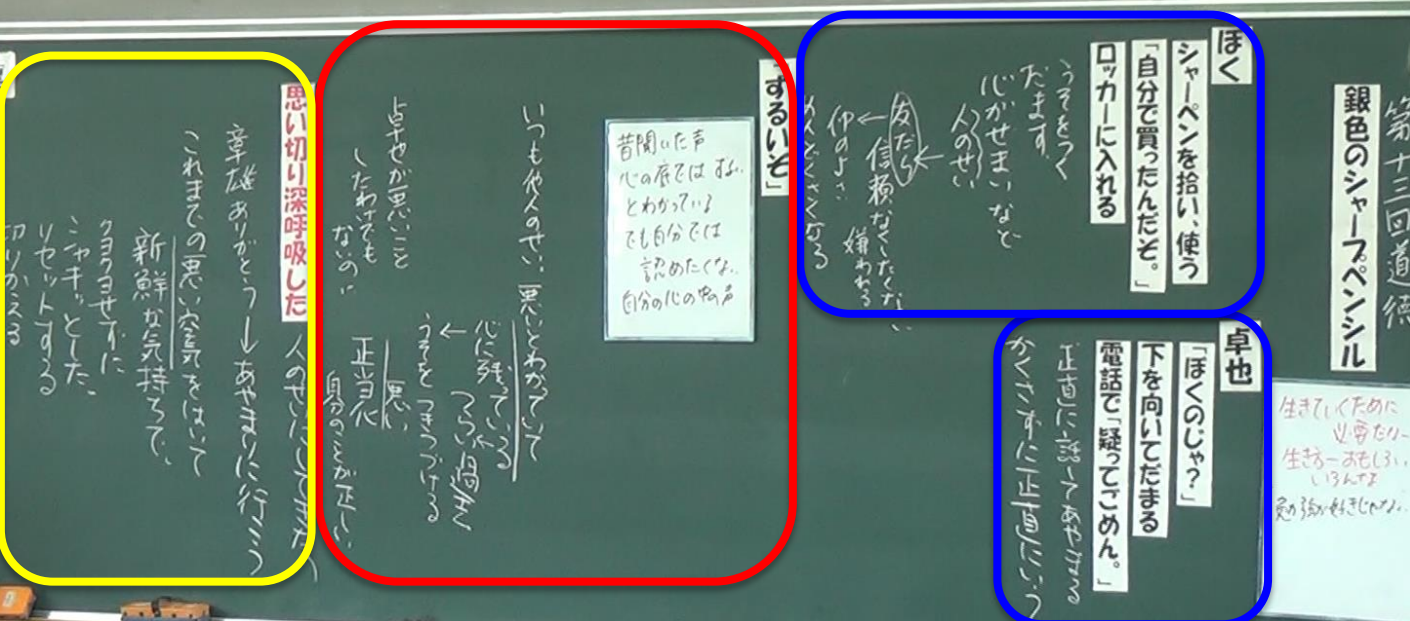
◆「ずるいぞ」この声は、誰(何)の声なのでしょう？

・なぜその声が聞こえたのかも考えさせる。

○思いきり深呼吸しながら、ぼくはどんなことを考えていたのでしょうか。(できるだけ「ぼく」の思いに迫れるように、問い返す。)

・まず個人でワークシートに記入してからグループで意見交換させる。

◆ばれていないのだから、行かなくてもいいのでは？



研究協議

協議の視点:

- 「人間の弱さ」ということについて、自分自身との関わりで考えていたか。
- これまでの学習を思い出しながら、「弱さを乗り越える」ということについての考えを多面的・多角的に広げていたか。

・心情円を効果的に使うことで、物語文ではなく、自分事として、自我関与が図られていた。終末において「私だったら」、「ぼくだったら」という書き出しで、振り返ることができていた。

・たくさんの問い返し、切り返しにより、自分の考えを深めることができていた。(「卓也が悪いわけでもないのに…」という呟きに対して、「のに…」の後に繋げられる人いる?) 一方で、問い返しが多すぎて、反対意見や他の意見を言いづらい状況も起こっていたのではないかと。

・「弱さを乗り越える」ことについては、十分に考える時間が確保できなかった。多面的・多角的に考えを広げていくために、「ばれてもいないのに…」に時間をかけたかった。

・じっくり考えを深めていくための時間を確保するために、例えば、教材範読時に、【主題名】を提示し、「そのためにどうすればよいかを考えながら聞いて」等、問題場面を考えさせながら聞かせることが、その後の思考がスムーズになるのではないかと。

・弱さを乗り越えた先の、2人の関係等を考えさせることで、よりよく生きようとする態度に繋がるのではないかと。

・中心発問を軸とした構造的な板書となるような工夫が必要。

講師による指導・助言

高知大学 森 有希 准教授

●限られた子供の発表で終わらせないために…

・挙手後、数秒待つ。(最初の挙手者だけでなく)

・意図的指名を行う。

・人の意見に対する感想を言わせる。(△△の意見をどう思う?) →ものの見方や考え方が広がっていく。

●発表と板書の関係

・子供の方を見ながら。(まとめて書く・WBの活用等)

・子供同士の相互指名で発表を繋げさせる。

●子供たちの思考をさらに一歩深めるために「ひと悶着」起こさせる今日のツッコミポイント(問い返し・切り返しポイント)

生徒の発言、思考(理由)を引き出す。

「俺なら謝りに行かん」→ばれていないから。

「とりあえず謝っておいた方がよいのでは」→信頼関係が大切だから。

教師の問い返し

「信頼関係を壊さないため？」

「本当のことは言わない方がよいのでは？」

「ぼくがうそをつき通そうとしなかったのはどうして？」等